令和７年度「人権教育研究推進事業」研究指定校事業

都道府県・指定都市名（　山形県　）

１．基本情報

研究指定校名	東根市立大富小学校

○これまでの研究指定等の状況

－

○学級数

１１学級（うち特別支援学級２学級）

○児童生徒数

２２０人（令和８年２月１日現在）

○URL

https://ootomi-higashine.edumap.jp/

２．調査研究のテーマ、概要、指定理由

調査研究のテーマ	「ウェルビーイング」の視点に基づき，人権意識を高める児童生徒の育成　～自己・他者・地域の「幸せ」を主体的に創造する活動を通して～　（※小中共通テーマ）

○調査研究のテーマを設定した目的

山形県では令和７年度から第７次山形県教育振興計画を展開しており、これまで本県で継続してきた「いのちの教育」の考え方や好事例を踏まえつつ、「ウェルビーイング」を目指し、様々な施策に取り組んでおり、人権教育や道徳教育についても重要な取組みとして取り上げられている。

また、子どもの人権に関わって、本県のいじめ問題に対する取組みは、学校における組織的・積極的な認知が広まり、早期発見・早期対応が進んでいる。しかしながら、インターネットやＳＮＳを介したトラブルは増加傾向である等、いじめを生まない風土づくりの重要性が高まっている。このような課題に対して、道徳科の授業や特別活動の時間を中心に、思いやりの心や規範意識等の醸成を進めているが、その内容をより系統的・継続的に指導していくとともに、個に応じた指導や支援をしていくことが

必要である。
　さらに、平成 28 年３月に策定した「山形県人権教育推進方針」に基づき、小学校と中学校における一貫した継続的な取組みを強化しながら、学校の教育活動全体を通じて、人権教育の理念である「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」につながる教育の実現を目指していくことも求められている。そのためには、小中学校段階に当たる９年間という大きな枠組みの中で、子どもたちの発達段階に合わせ、系統的かつ継続的に人権意識を高めていく必要がある。東根市大富地区は伝統的に小学校１校、中学校１校で構成される学区であり、「大富っ子構想」（小中連携・地域連携）のもと、人権意識を醸成する小中一貫の多様な活動に取り組んでいる。この土台のうえに、令和７年度からは「ウェルビーイング」をキーワードに、個人の幸せだけでなく、仲間や地域に住む人たちが幸せを感じられるよう、「子供」「高齢者」「外国人」「インターネットによる人権侵害」等の人権課題について、全教育活動を通した取組み、働きかけを行うことが有効であると考え、主体的・協働的に行動できる生徒の育成を目指し、本テーマを設定した。

〇調査研究の概要

　小中共通テーマに基づいた諸活動で培われた「他者への想像力」を「人権意識」へと昇華させるため，以下の３つの観点から多層的な支援・育成を展開した。
①「ウェルビーイング：個人の幸せ（自己肯定感）」の向上に向けた支援・育成
　・自己有用感の醸成
　　自分の行動が他者や社会に役立っている実感を深め，「自分は大切な存在である」という意識を育む。
②「ウェルビーイング：仲間の幸せ（他者への共感）」の向上に向けた支援・育成
　・多様な個性の受容
　　互いの違いを認め合い，誰もが心地よく過ごせる日常（学級・学校）づくりを行う（いじめ未然防止，ＳＯＧＩ等の理解推進）。
③「ウェルビーイング：地域の幸せ（社会参画意識）」の向上に向けた支援・育成
　・地域への主体的な働きかけ：
　　「百姓寺子屋」や「さくらんぼ環境ＩＳＯ」等を，単なる定例の活動ではなく「地域のウェルビーイングを創造する活動」と捉え直し，主体的に行動する力を養う。

　これら３つの取り組みの効果を客観的に捉えるアンケート調査等を実施した。数値化された生徒の変容と活動内容を照らし合わせ，その相関関係を検証することで，人権意識を高めるための有効な手立てを明らかにした。

〇指定理由

　本県では、「山形県人権教育推進方針」に基づき、子どもの自主性や主体性を重視しながら望ましい人間関係づくりを進めるとともに、すべての子どもが安全で安心に生活できる環境づくりを進めており、人権教育の充実に関する小学校、中学校それぞれの実践も行われている。一方、各地区で小中一貫教育が進められているものの、人権教育を通した、小中学校が連携した取組みの実践が少ないことが課題となっている。県の取組みとして現在策定中の「第７次山形県教育振興計画」の基礎にもなる「ウェルビーイング」と東根市大富地区で目指す「ウェルビーイングの視点を基に『人権意識』を高める児童・生徒の育成」が研究実践に適していると考えた。

また、東根市大富地区は、以前から小学校１校、中学校１校で構成される学区であり、現在も「大富っ子構想」（小中連携・地域連携）のもと「あいさつ活動」や「花いっぱい活動」などに継続して取り組んでいる。令和２年の豪雨水害をうけ、大富地区の避難所が大富中学校に指定され、小中合同で小学校から中学校への避難訓練を実施する等、「防災教育」にも力を入れてきた。その中で、地域には高齢の方や園児など、避難する際に配慮が必要な人がいること、避難する際にその人にとって障害となるものがないか等、「多様な視点」で物事を考える力が確実に身についてきている。その体制を活かして、子どもの発達段階に合わせて小中連携を強化した人権教育の取組みを計画している。そして、人権教育を柱として、小学校から継続した人権教育の実践が図られるとともに、地域に根差した小中一貫教育の好事例として全県に発信することで、本県が目指す「ウェルビーイング」の推進や、学校におけるいじめの問題、不登校といった生徒指導上の諸課題を解消していく手立ての１つになるものと期待されるため。

３．取り組んだ人権課題

※　該当するものに〇印。複数選択可。うち、最も主要な人権課題１つに◎印。

※　下線部は、令和７年度事業における重点課題。

① 子供	◎
② 女性	
③ 高齢者	〇
④ 障害者	〇
⑤ 同和問題	
⑥ アイヌの人々	
⑦ 外国人	〇
⑧−１ HIV 感染者等	
⑧−２ ハンセン病患者等	
⑨ 刑を終えて出所した人	
⑩ 犯罪被害者等	
⑪ インターネットによる人権侵害	〇
⑫ 北朝鮮当局による拉致問題等	
⑬ 性的指向、性自認	〇
⑭ その他（　　）	

４．調査研究の内容等

○調査研究の内容（「３つのウェルビーイング」の具体的展開）

「２．調査研究のテーマ、概要、指定理由」の「○調査研究の概要」で掲げた３つの観点を具現化するため，以下の教育活動を実施した。

①「個人の幸せ（自己受容)」に向けた支援・育成

・自己理解の深化

道徳や総合的な学習の時間を通じ，自分自身の心と体，尊厳を大切にする態度を養う。

・教員の専門性向上

Ｑ－Ｕアンケート（学力とのクロス集計を含む）分析研修を通じ，個々の「居場所感」や「承認感」を可視化し，適切な個別支援に繋げる。

②「仲間の幸せ（他者共生)」に向けた支援・育成

・多様性への共感

「人権教室」や「スマイルサミット」を通じ，障がい，国籍，性的指向等の多様な背景を持つ他者の立場を想像し，いじめや差別を許さない集団を育成する。

・情報モラル

ＳＮＳ講演会を通じ，ネット上での人権侵害を防ぎ，互いを尊重したコミュニケーション能力を育む。

③「地域の幸せ（社会参画)」に向けた支援・育成

・貢献実感の醸成

百姓寺子屋やさくらんぼ環境ＩＳＯ実践交流会等を通じ，「自分の行動が地域の安心や喜びに繋がっている」という自己有用感を高める。

○実施方法（課題別の具体的アプローチ）

①　課題：子供・いじめ・差別

・客観的分析と支援

Ｑ－Ｕアンケート（学力とのクロス集計を含む）等のデータを基に，教師の主観に頼らない生徒理解を行い，一人ひとりの満足度を高める学級づくりを行う。

・主体的解決

スマイルサミットに向けた学級討議にて，具体的な差別事例を提示し，自分たちの手で「誰もが幸せな学校」をつくる意識を醸成する。

②　課題：外国人・障がい者・性的指向，性自認

・ロールモデルによる意識変容

ハリウリサ氏（５・６年生、中学校と合同で実施)，高橋なんぐ氏（１～４年生）を講師に招聘。「笑い」や「実体験の告白」を入り口に，多様な背景を持つ人々が「自分らしく生きる」ことの尊さを学び，差別的な視点を払拭する。

③　課題：インターネットによる人権侵害

・自己選択・自己決定能力の育成

単なる「禁止」ではなく，正しい知識に基づき，自分も相手も傷つけないデジタルシティズンシップとしての資質を養う。

○検証・評価・改善・普及

【検証・評価】
①学校における調査　※主に「外国人・障がい者・性的指向，性自認」に関すること

調査手段　Microsoft Forms による
調査項目　以下に示す項目
調査対象　５・６年（年２回）

①．とてもよくあてはまる　②．どちらかというとあてはまる
③．どちらともいえない　④．どちらかというとあてはまらない
⑤．まったくあてはまらない

≪知識・理解≫
（１）ＬＧＢＴＱという言葉の意味を知っている
１回目調査で④・⑤と回答した生徒が９０％。２回目調査で④・⑤と回答した割合が０％となった。

（２）ジェンダー平等の意味を知っている【検証・評価】
１回目調査で①・②と回答した生徒が９０％
①の割合が２８％増の８６％となった。

教育活動全体の中で（朝の会，給食，ふれあい等）必要に応じて教員が話題にすることの重要性が伺える。

（３）日本と違う文化で育った外国人が，日本で生活するときの困難について知っている
２回目調査で①・②の割合が，１７％増の８０％。１７％が③・④・⑤と回答している。

（４）多様性の考え方について，理解できている
２回目調査で①・②の割合が８８％。③も合わせると９９％となった。

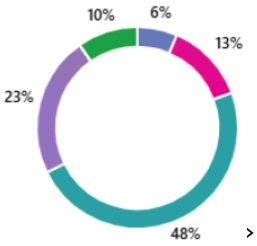
≪意識・態度の変化≫　「考え方」「受け入れ方」の変化を測る項目
（５）自分と違う性の在り方や生き方を，尊敬できる
１回目調査で①・②の割合が８０％。③も合わせると９９％。２回目調査で①・②の割合が９３％となった。

（６）外国出身の人と協力することに抵抗はない
１回目調査で③・④・⑤と回答した割合が２９％。２回目調査では１０％まで減少。

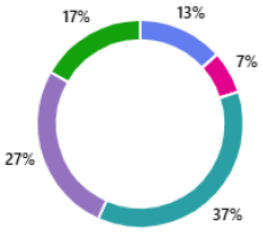
（７）男女どちらも同じように活躍できる社会が望ましい
１回目調査で①・②の割合が９０％。③も合わせると９９％。

（８）無意識の差別や偏見が自分にはあるかもしれない【検証・評価】

１回目



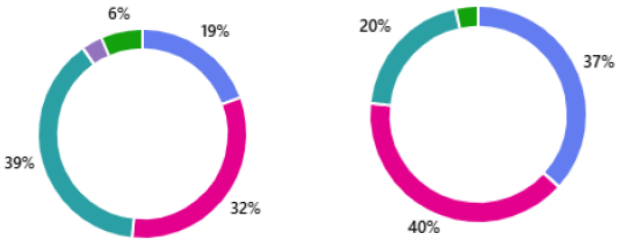
２回目



年間を通しても「自分は偏見や差別を無意識にしているかもしれない」と自分自身に矢印を向けている児童が多い。

（９）差別や偏見（いじめ）を見聞きしたとき，違和感を伝えている（伝えたい）【検証・評価】

１回目　　２回目



まだ、勇気をもって行動に移していこうとする成長過程にある。そんな自分に真剣に向き合っている児童が多い。

（10）多様な人の意見を聞くように心がけている（心がけたい）
　１回目調査で①・②の割合が８０%。２回目調査では８７%に増加。④・⑤が０%となった。

（11）ＬＧＢＴＱ・ジェンダー平等・異文化についてもっと知りたい（これから勉強したい）
　１回目調査で①の割合が４２%。２回目調査では７５%に増加。１回目調査時点で④・⑤は０%。

≪学習を終えて（感想：事後）≫
・もっと、自分と違う感性の人と会って話したい（５年生）
・自分にはない感性を持っている人がいてもみんなが安心できる環境づくりを心掛けたい。自分だけではなくみんなが平等に楽しめる行動をとりたい。自分だけが幸せではないことを知ったので、差別している人がいたら注意をしてみんなが意見を言いやすい場所を作りたい。一緒に遊ぶとなった時もその人とでもできることをやって遊んでみたい（６年生）
・自分と違う性の在り方や生き方を尊重したいなと思いました。また、男女どちらも活躍できるようにしたい。それに、LGBTQ やジェンダー平等の考えを未来の子供たちに伝えたいなと思いました。そのためには、LGBTQ やジェンダー平等をもっとよく知りその意味を学ぶということだと思いました。（５年生）

調査手段　Microsoft Forms による
調査項目　以下に示す項目
調査対象　３・４年　（年１回　学年末実施）
　①．とてもそう思う（😊）②．すこしそう思う（🙂）③．どちらでもない（😐）
　④．あまりそう思わない（😟）⑤．ぜんぜんそう思わない（☹️）

≪しっているかな？（知識・理解）≫
（１）「男の子だから」「女の子だから」ときめつけないことをしっている
　　①５７%，②３０%
（２）外国からきた人が、日本でこまっていることがあるのをしっている
　　①４３%，②３９%
（３）みんなそれぞれちがうのがあたりまえだとわかっている
　　①７４%，②１７%

≪どう おもう？（意識・態度）≫

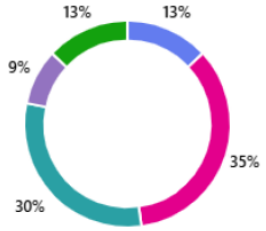
（４）自分とはちがうすきなものや、すごしかたをしている人を「いいな」とおもえる

①５７％，②２６％，③１３％

（５）男の子も女の子も、同じように好きなことに挑戦（ちょうせん）できるのがいいと思う

①８７％，②９％

（６）自分でも気づかないうちに、だれかをきずつけてしまっているかもしれないと思う【検証・評価】



差別や偏見悪いと認識しながら，５・６年比，自分に自信が持てない児童の割合が多い。「自分はしていない」を否定するつもりはないが、自分自身を深く分析しようとしている姿がよい。

≪やってみよう！（行動・実践意欲）≫

（７）だれかがいじわるをされているのを見たら「だめだよ」と言いたい（言っている）【検証・評価】

①３０％，②５２％，③１３％

①の割合が低く，③の割合が高い。ダメなことを言いたい自分と，言うことをためらう自分の葛藤を見ることができる。

（８）自分とはちがう考えのお友だちのお話も、きくように気をつけている

①６５％，②３０％

（９）いろいろな国の人や、いろいろな生き方の人のことを、もっとお勉強してみたい

①３５％，②５２％

② 学校評価アンケート（保護者）

※主に「地域の幸せ（社会参画）」，インターネットに関する項目

・お子さんは，地域とのつながりを大切にして，地域学習（町探検・カクレトミヨの環境学習・百姓寺子屋による農業体験学習・栽培活動・各種施設との交流等）に楽しんで取り組んでいますか。

とても楽しんでいる	６０％	楽しんでいる	３１％
どちらとも言えない	９％	楽しんでいない	０％

・お子さんは，自分が追求したい課題に向かい，ICT や図書等を活用していますか。【検証・評価】

とても活用している	１５％	活用している	４０％
どちらとも言えない	３８％	活用できてない	７％

保護者アンケートで「できない」の割合が最も多かった項目であり，「とても～」の割合が大幅に少なかった項目になります。ICT 活用については，肯定的なイメージを持てていないことが伺えます。

③　Q-Uアンケート（年２回）・客観データによる生徒の変容（成長）

※　主に「(自己受容・自己理解)」関すること

調査項目　以下に示す項目
調査対象　４～６年　（年２回）
①とても思う　②思う　③思わない　④とても思わない

・クラスの人から好かれ、仲間だと思われている　（４～６年）

	≪５月≫ ①	②	③	④		≪１１月≫ ①	②	③	④
4年	37.0	29.6	22.2	11.1	⇒	33.3	55.6	3.7	7.4
5年	51.5	39.4	9.1	0.0	⇒	45.5	45.5	6.1	3.0
6年	66.7	27.3	6.1	0.0	⇒	55.9	38.2	5.9	0.0

・授業中に質問に答えたり発言したりするのは好き（４～６年）

	≪５月≫ ①	②	③	④		≪１１月≫ ①	②	③	④
4年	11.1	29.6	40.7	18.5	⇒	11.1	18.5	40.7	29.6
5年	27.3	36.4	33.3	3.0	⇒	27.3	45.5	24.2	3.0
6年	44.1	29.4	20.5	5.9	⇒	38.2	29.4	26.5	5.9

・運動や勉強等でクラスの人から認められることがある（４～６年）

	≪５月≫ ①	②	③	④		≪１１月≫ ①	②	③	④
4年	14.8	40.7	25.9	18.5	⇒	14.8	59.3	18.5	7.4
5年	42.4	36.4	21.2	0.0	⇒	39.4	42.4	18.2	0.0
6年	58.8	32.4	5.9	2.9	⇒	61.8	23.5	11.8	2.9

・クラスの中に気持ちをわかってくれる人がいる　（４～６年）

	≪５月≫ ①	②	③	④		≪１１月≫ ①	②	③	④
4年	37.0	33.3	14.8	14.8	⇒	59.3	7.4	11.1	22.2
5年	45.5	42.4	12.1	0.0	⇒	42.4	39.4	18.2	0.0
6年	55.9	29.4	11.8	2.9	⇒	67.6	20.6	11.8	0.0

調査項目　以下に示す項目
調査対象　２・３年　（年２回）
①とても思う　②思う　③思わない　④とても思わない

・困ったときに話を聞いてくれる友達がいる　（２・３年）

	≪５月≫ ①	②	③	④		≪１１月≫ ①	②	③	④
2年	33.3	48.7	17.9	0.0	⇒	47.5	42.5	10.0	0.0
3年	57.4	27.7	10.6	4.3	⇒	50.0	45.7	4.3	0.0

・クラスの人からすごいなと言われることがある（２・３年）

	≪５月≫ ①	②	③	④		≪１１月≫ ①	②	③	④
2年	28.2	51.3	15.4	5.1	⇒	20.0	60.0	12.5	7.5
3年	38.3	31.9	19.1	10.6	⇒	34.0	34.0	19.1	12.8

・友達はあなたの話を聞いてくれますか

	≪５月≫ ①	②	③	④		≪１１月≫ ①	②	③	④
2年	59.0	30.8	7.7	2.6	⇒	62.5	25.0	10.0	2.5
3年	66.0	21.3	10.6	2.1	⇒	70.2	19.1	10.6	0.0

【検証・評価】
・総じて，全国平均より高い数値である。
・特に，４年生の個々の成長が大幅にみられる。年間を通してクラスが心地よい居場所になっている。
・ネガティブな捉えの児童が確実にいることをつかみ，個別の支援とともに，戦略的に学級経営に取り組む必要がある。

【改善・普及】
① 偏見や差別の不当性は広く周知されているものの、その根絶には至っていない。児童生徒の当事者意識を高める上で、実体験に基づく講話は極めて有効な手法である。本年度実施したタレントによる実体験講話は、事後の評価検証において多大な教育的効果が確認された。ここでいう「効果」とは、単に正しい知識を得るだけでなく、講話を通じて自らと対話し、自身の内面にある無意識の偏見やネガティブな感情に気づくといった「内省的プロセス」をも含んでいる。今後は本年度の実施事例をモデルとし、特に低学年の発達段階に応じた人権教育の充実に向け、工夫を継続していく。
② 本年度より、中学校区内の一小学校としての特色を活かし、学校運営協議会の合同開催を導入した。系統性のある「地区の育てたい子ども像」を構築するにあたり、本事業（人権教育）は極めて効果的な役割を果たした。特に人権教育の効

果を期待する視点「他者理解」や「自己省察」は、委員が主体的に学校運営に参画するための端緒（切り口）となり得るものであり、今後の協議会活性化に向けた強力な推進力となることが期待される。

５．人権教育にかかる年間指導計画

学校経営構想図

校 訓 ： 清く 正しく 美しく

第７次山形県教育振興計画

〈基本目標〉
ウェルビーイングを目指し，多様性あふれる持続可能な社会の実現を担う山形の人づくり

東根市がめざす子ども像
・夢をもって前向きに学ぶ子ども
・真心をもって人と接する子ども
・自然を愛し、ものを大切にする子ども

学 校 教 育 目 標

豊かな心で 前向きに挑戦 みんなで幸せ大富小

児童の実態
保護者・地域の願い

学校経営の方針

「子どもが主語になる学校」

○「いのちの教育」の充実で、一人一人の子どもに笑顔あふれる学校づくりに努める。
○一人一人の学ぶ意欲を大切にし、「やってみたい」「分かった」「できた」「おもしろい」等、前向きな子どもの声が聞こえる授業づくりに努める。
○健康教育と楽しい教科体育の実施により、子どもが健康でたくましく、運動の楽しさや親しみやすさを実感できるよう努める。
○学校の様子を積極的に発信し、地域に愛される子ども・地域に愛される学校となるように努める。
○児童・教職員が心身ともに安全を感じられるよう、危機管理を図る。

めざす学校像

○安全・安心で居心地良く学べる学校
○つながりを重視し「ありがとう」が響く学校
○自己実現と成長が実感できる学校
○環境を大切にし、自然に親しむ学校
○地域に学び、地域とともに歩む学校

子どもたちに**笑顔**があふれ
教職員が**やる気**に満ち
保護者や地域に**信頼**される学校

めざす子ども像

「どっこ水」のようにきれいな心で
「カクレトミヨ」のように一生懸命励む 大富っ子

○心豊かで思いやりのある子供 （徳）＜美しく＞
○学びを楽しみ前向きに挑戦する子供（知）＜正しく＞
○心身ともに健康でねばり強い子供 （体） ＜清く＞

＜児童会目標＞ **チャレンジ 大富小**

学校経営の重点
「子どもが主語になる学校」

めざす教師像

○同僚性を発揮し信頼し合える教師
○子供を信じ、寄り添う教師
○授業を大切に楽しめる教師
○研鑽を積み創造する教師
○家庭、地域とつながる教師

子供たちに笑顔があふれ

学び合える学級風土の醸成
①共感的な関係 自己存在感
安全・安心な学級
②「かかわり」と「つながり」
多様性が尊重される学級
③自己決定の場が保障される学級
④自己実現と成長が実感できる学級

教職員がやる気に満ち

自立した学習者の育成
①自分の良さ 可能性を自覚し伸ばそうとする学習者
②主体的に考え 他者と協働 納得解を導き出す学習者
③学習の意義と価値を正しく判断できる学習者
④自己選択と学びの調整 粘り強く取り組む学習者

保護者や地域に信頼される

子供の最大の環境であることを自覚する教職員
①子供の気持ちに目を向け、受け止め理解する教職員
②子供の可能性を信じ、子供の成長に寄り添い続ける教職員
③子供の自律（立）を見守り、支える教職員
④自身のスキルや考えをアップデートし、学び続ける教職員
⑤地域に学び地域を愛し地域を誇れる教職員

全体計画　　いのちの教育全体計画

校風：教育スローガン

清く　正しく　美しく



明るい声の響き合う学校
豊かな心で　前向きに挑戦
みんなで幸せ　大富小



《いのち輝く子供の姿》
☆自分のよさに気づく
☆精一杯努力する子ども
☆他の命や物に思いを寄せ、大切にする子ども
☆人の役に立ちたいと思い、力を出せる子ども
☆自然の中で学び、恵みに感謝する子ども

《環境ＩSO》
・資源を大切に
　水・水道・電気
・地域をきれいに
・大富の生き物について
　カクレトミヨの飼育と観察

《縦割り活動》
・異年齢集団で、友達を広げ、助け合い、認め合う
・学校をきれいに：掃除
・楽しい活動：縦割り班遊び
・楽しい学校生活：委員会
　クラブ

自分じまん

〇〇の身になって

かかわる力
つながる力

振り返る力

夢・あこがれ

《保健・安全指導》
・自分を大切にする。
　喫煙防止
　歯磨き
　薬物防止
・体と心の成長
・健康、衛生
・安全
　避難訓練
　日常的な指導

《教科指導》
・「分かった」「できた」達成感、満足感のある学び
・自分の考えを表現
・互いに認め合う心
・考えを深め、広げる活動

《道徳教育》
・心にしみる道徳指導の実践
・「いのちを大切」にする話

《総合的な学習》
・地域社会での体験を通して学ぶ（地域の産業、人々の文化、伝統、自然、生き物、田んぼや畑の活動）
・人の生き方に学ぶ（地域に生きる人々、先人）
・環境について

自分を大切に思う気持ち（自尊感情）を育てる

他の命の大切さ多様さつながりに気づかせる

人としての「生き方」を考える

指導の重点

大富小学校

道徳教育全体計画

《地域・保護者・児童》
・豊かな環境に恵まれ、地域・保護者は学校に協力的
・児童は明朗で、素直

《学校教育目標》
豊かな心で　前向きに挑戦
みんなで幸せ　大富小

《社会的背景》
・教育関係法令
・時代・社会の要請
・教師の願い

《道徳教育目標》
よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力・心情、実践的意欲と態度を育てる。

		A 主として自分自身に関すること	B 主として人との関わりに関すること	C 主として集団や社会との関わりに関すること	D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること
		より高い目標に向かって粘り強く努力する態度の育成	相手を思いやり、相手の立場に立って行動する態度の育成	公共物を大切にし、約束やきまりを守る態度の育成	美しいものや自然のすばらしさを求めて行動する態度の育成
学年の重点目標	低学年	よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行う。	約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にする。	約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にする。	身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接する。
	中学年	自分でやろうと決めたことは、粘り強くやり遂げる。	郷土の伝統と文化を大切にし、郷土を愛する心をもつ。	郷土の伝統と文化を大切にし、郷土を愛する心をもつ。	自然のすばらしさや不思議さに感動し、自然や動植物を大切にする。
	高学年	より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力する。	外国の人々や文化を大切にする心をもち、日本人としての自覚をもつ。	外国の人々や文化を大切にする心をもち、日本人としての自覚をもつ。	美しいものに感動する心や人間の力を超えたものに対する畏敬の念をもつ。

各教科における道徳教育

国語	国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに思考力や想像力及び言語感覚を養う。
社会	社会生活のついての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる資質を養う。
算数	数学的活動を通じて、数量や図形についての基礎的な知識と技能を身につける。
理科	自然に親しみ、観察や実験を通して問題解決の能力を養う。
生活	体験を通して、基本的な生活習慣を身に付けさせ、自立の基礎を養う。
音楽	音楽を愛好する心情と感性を育て、豊かな情操を養う。
図工	創造活動の基礎的な能力を育て、表現の喜びの中で豊かな情操を養う。
家庭	衣食住に関する実践活動を通して、家族の一員として、家庭生活をよりよくしようとする実践的態度を育てる。
体育	身近な生活における健康安全についての理解を通して、健康の増進と体力の向上を図る。
外国語	外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

道徳の時間

各教科、特別活動との関連を図りながら、計画的・発展的な指導によって、補充・深化・統合し、道徳的価値の自覚を深め、道徳的実践力を育成する。

道徳の時間の充実へ向けて
- 校内研究の推進
- 豊かな体験活動を生かす
- 適切な資料の選定・活用
- 学習ノートの活用
- 本音で語り合える学級経営
- 現代的な課題を取り上げる
- 家庭・地域社会との連携
- 問題解決的な学習
- 多面的・多角的な見方を

特別活動

望ましい集団活動を通して、集団の一員としての自覚を深め、協力してよりよい生活を築こうとする自主的・実践的な態度を養う。

学級活動	望ましい人間関係を形成し、諸問題を解決する自主的な態度を育てる。
児童会活動	児童会活動を通して、諸問題を解決する自主的・実践的な態度を育てる。
クラブ活動	集団の一員として協力してクラブづくりに参画する態度を育てる。
学校行事	望ましい人間関係を形成し、所属感や連帯感を深め、よりよい学校生活を築こうとする態度を育てる。

学校教育活動

人との関わりを、異学年や地域につなげ、多くの人のふれあいの中で、豊かな人間性を育んでいく。
・縦割り班での活動
・体験活動の充実
　寺子屋さんとの農業体験
　カクレトミヨの飼育等

総合的な学習の時間

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成する。

生徒指導・教育環境の充実、整備

明るく楽しい学校生活を送るために必要な好ましい人間関係を育てる。

基本的な生活習慣を定着させることにより、自分の生活をよりよくしようと努める児童を育てる。

その他の教育活動全般

大富小学校

５　ふるさとふれ合い活動

１　カクレトミヨと環境を学ぶ

①　実施日　　学年の年間計画による

②　ねらい

・カクレトミヨと環境について学年に応じて学び、川や地域の環境を守ろうとする気持ちをもつ。

③　実施方法

・学年カリキュラムにカクレトミヨ学習と環境学習を位置づけて、計画的に取り組む。

・カクレトミヨ学習計画にそって、学年の学習内容を決め、系統的に学ぶようにする。

・総合的な学習の時間を通して、３年生が中心となってカクレトミヨの世話を担当する。

２　勤労生産学習

①　ねらい

・生活科、総合的な学習の時間で計画的に勤労生産学習に取り組み、「作物を育てる楽しさ、働く尊さ、収穫の喜びと感謝、環境を大切にする心」を育てる。

・百姓寺子屋のメンバーの皆さんからの支援を受けて農業体験を継続することを通して、地域農業への理解と関心を高め、地域への愛着と誇りを育てる。

②　実施方法

・生活科・総合的な学習の時間に活動を位置づけ、学校畑、地域提供の畑や水田にて生産活動に取り組む。

・学校畑では、児童の実態や学習内容に応じた作物を育てる。

・百姓寺子屋さんの協力を得て、３年「りんご」５年「米」の栽培をする。

・できるだけ自分たちの力で栽培するよう、年度の初めに打ち合わせと計画を密にする。

・百姓寺子屋のメンバーと収穫に感謝するために、学年毎に感謝の会を計画し実施する。

・体験を生かして、探究的な学習につなげるよう計画を工夫する。

３　クラブ活動

・年６回の活動を行う。各クラブの活動に応じて，地域の方に呼びかけ，ゲストティーチャーとして参加していただく。

６．推進体制（都道府県・指定都市教育委員会等を含む）

